

その他直接参照する便宜を得なかつたが、参考のために釋條地圖に關する重要な文献を記せば、

Winkler : *Über d. in frühern Zeiten in den*

*Marine Rundschau* 1898

*Marshallseln gebrauchten Seekarten.*

P. Hambruch : *Die Schifffahrt auf den Karolinen*

*und Marshallseln. (Sammlung Meeres-*

*kunde)* Berlin 1912.

## 新著紹介

### ○地名の研究

柳田國男著 四六版本文及索引三六八頁  
東京古今書院發行 一月 定價一圓八〇錢

我國唯一の地名研究家である柳田氏が三十年間に亘つて講演し、記述したものを地名に大關心を持たれてゐる少壯地理學者の山口貞夫氏が編纂されたものがこのスマートの成書である。著者の地名に對する態度は地名から古い日本の生活を知り出さうとするのであるから我國民性を認識するのに役立つものとなる。さうした深い考の下で我國の地名の如何なるものかを講説した「地名の話」「地名と地理」「地名と歴史」と題する略似た三篇の總説で本書の三分の一を充たし、餘は地名考説として各論に這入つてゐる。但し考説の五十五項中

の最初の六項までは總説に屬するものである。多くの切れ切れに説述されたものをかうした體制を探らした編者の勞を多としなければならぬと同時にこゝに後來我國の地名攻究上に一つの土臺を置いたことになつたのは地理學界の爲慶賀の至りに堪へない。夫にしても我國地名研究の材料とすべき地名の蒐集輯成が行はれなくては研究を進めることが困難である。英國の様な記録局で古文書の地名を輯成する機關のない我國では地名研究の聲の上つた時にこれも英國の様な地名協會の設立を企て、そこで地名蒐集の様な繁雜な仕事をした。現在では「文献索隱」の五萬分之一地形圖の地名索引位しか材料のないのは如何にも残念である。本書は後來起らなければならぬ我國地名研究の或る方面の指針を與へたものであるのと地名研究が地理上、國民性認識上効果多く且つ興味深いものであることを教へる點に於て地理學徒の必ず座右に備へなければならぬものであることは誰れも否めないと信ずる。(中村)

### ○蒙古地名ノ解説

滿洲國蒙政部總務司調査科編  
菊版一一八頁 地圖四葉附 康德二年二月

滿洲地名の地理學的研究には滿鐵田口稔氏のフランス文の成書があるが邦文でない爲め一般に行き渡らぬのを遺憾としてゐた。茲に蒙政部調査科員何吾扎布氏の解説したものを同科員首藤榮喜氏の日譯した興安各省内に於ける蒙古地名の解説を得たことは蒙古語や各種の地方語に縁遠かつた我等に採

つては一福音である。本書は興安東西南北四省の各旗に別ち旗内の村落・河川・山嶺・廟等につきて簡單に解説せるもので其の數は多くないが、これによつても略蒙古地名の構成の大略を窺ふことが出来る。因に周知の一般地名の蒙音を擧げると山リオーラ、山嶺リダバ、山峰リハダ、河リゴル、江リムルン、旗リホシヨ、屯リエーラ、廟リスム、湖沼リノールである。(中村)

○大塚地理學會論文集 第五輯 大塚地理學會編

菊版三三四頁 東京古今書院發行 十年十二月  
定價三圓二〇錢

我國地理學界の一方をリードしつゝある大塚地理學會論文集は其の第五輯を公にして多くの力作を載せて居る。人文各種の方面に亘つた論文の集成であるから通讀するのに氣分が換つて容易である。下記の主要論文の外に大會の講演要旨及び研究發表會の概要七十項が附載されてゐて新進學徒の成果を窺ふに都合がよい。但し編輯者の要旨に手を入れることが出来ない爲めか論文の方に出てゐるものも論文集第五輯に掲載される筈であるなどと印刷してあるのは目ざはりである。(N)

榊田一二 濟州島人の内地出稼に就いて

村上節太郎 中豫地方に於ける水稻栽培の地域性

村木定雄 富士火山西南斜面の地誌學的研究(一)

山口俊策 富津灣附近に於ける漁業の地域性

位野木壽一 丸龜平野に於ける灌漑の地理學的研究  
上 原 徳 城下町轉移の地理學的研究(特に高嶺)  
内田寛一 武藏野の計畫的開拓の一例(下)  
田中啓爾 我が國に於ける地理的南北性(第一報)

雜報

○但馬に於ける「屋切り造」家屋

寫眞は但馬國美

方郡小代村神場上治長治氏の家屋であつて、上は側面、下は正面である。但馬山間に於ける家屋の一型式である。切妻の兩端に葺き出しがなくて、防火壁の如く屋上に突き出し、小屋根を以て之を葺き舂裁を整へ、家全體の構造とよく調和を保たせてある。この壁を「屋切り」と呼び、元來、火よけ即ち防火のために考案されたる一構造であつて、曾て民家史の著者藤田文學士も述べてゐる。寫眞の如く「兩屋切り」もあれば「片屋切り」もある。同村水間、岡田幸之助氏(現、小代村長)宅は家の一方にだけ隣家のある關係上、片屋切りである。屋切りの兩側を「袖」と呼び、その内側には「福」「壽」「水」等の文字、又は「松」「鶴」「龜」「波」等の繪畫を畫いてある。入念の家屋は全部白壁を塗り、屋切りの上半は襖板を以て風雨に耐える様に造つてある(寫眞参照)。  
屋切り造の家屋は大抵一部落に一―二月に限られ、全く之を缺く部落もある。これは建築費用の關係と階級意識との關